

2017年5月26日 第3200回例会
於： 横須賀商工会議所

- <点鐘・開会> 12:30 谷 会長
 <斉 唱> 「それでこそロータリー」
 <ゲスト紹介> *清泉女子大学文学部スペイン語スペイン文学科名誉教授 吉田彩子様
 *横須賀バスケット協会 副理事長 廣田和生様
 *米山奨学生 金 聰 勅 様
 *2016-17年度財団奨学生 米山明里様
 *2017-18年度財団奨学生 矢 嶋 優 様
 *大和証券(株)横須賀支店 支店長 原田早苗様
 <ビジター紹介> *逗子ロータリークラブ 会長 菊池 尚 様

- <会長報告> *逗子ロータリークラブ菊池尚会長より55周年記念例会の御礼のご挨拶
 *米山奨学生 金聰勅様ご挨拶
 *2016-17年度財団奨学生 米山明里様ご挨拶
 *2017-18年度財団奨学生 矢嶋優様ご挨拶
 <委員長報告> *新倉良是会員より地区新「会員の集い」の報告
 *曾我ローターアクト委員長より第1027回例会のご案内
 日時：6月13日(火) 19:45～
 内容：次年度年間予定について 於：ヨコスカタラス



- <幹事報告> *週報・横須賀西RC/横須賀南西RCより
 <出席報告> *出席委員会 澤田委員長より5月26日の出席率

会員数	出席対象者数	出席数	欠席数	メイクアップ数	出席率
109名	97名	65名	32名	7名	73.47%

- <ニコニコ報告>
 ・菊池 尚 様 (逗子RC会長) 逗子RC 55周年に際し、大変お世話になりました。
 ・三 役 清泉女子大学文学部スペイン語スペイン文学科名誉教授 吉田彩子様、本日お忙しい中卓話をお引き受けいただきありがとうございます。お話楽しみにしておりました。
 ・瀬戸、福西、植田、上林、高橋、小佐野、鈴木、秋本、新倉、野坂、薦野、鈴木、飯塚、長尾、澤田、勝間 各会員
 清泉女子大学文学部スペイン語スペイン文学科名誉教授 吉田彩子様本日の卓話楽しみにしております。よろしく願いいたします。
 ・飯塚 会員 横須賀バスケット協会副理事長 廣田和生様、ようこそお越しくださいました。
 ・三 役 米山奨学生 金 聰勅様、2016-17年度財団奨学生 米山明里様、2017-18年度財団奨学生、矢嶋 優様ようこそ。ご挨拶ありがとうございます。
 ・猿丸、波島、秋本、佐久間、齋藤、飯塚、前川、江沢 各会員
 米山奨学生 金聰勅さんようこそいらっしゃいました。
 ・岩瀬、加藤、山、齋藤、藤村、飯塚、勝見 各会員
 財団奨学生米山明里さん、矢嶋優さん、ようこそお越しくださいました。米山さんお帰りなさい。矢嶋さん行ってらっしゃい。
 ・三 役 逗子ロータリークラブ菊池会長ようこそ。55周年おめでとうございます。
 ・新倉、外崎、岡、八木、岡田、小佐野 各会員
 逗子ロータリークラブ会長菊池尚様、ようこそいらっしゃいました。
 ・瀬戸、福西、Enora、田邊、佐久間、大竹、若麻、北村、澤田、齋藤、根岸、齋藤 各会員
 先週の親睦野球観戦、大変楽しかったです。惜しくもDeNAは負けてしまいましたが、

- ラミちゃんと写真が撮れたので良かったです。ゲッツ！
 ・加藤、新倉 両会員 5月20日(土)に「2780地区新会員の集い」に参加いたしました。今野会員、吉田会員、淡路会員当日はお疲れ様でした。親睦会兼テーブルミーティング楽しかったです。
 ・小佐野、飯塚、山、新倉、北村、上林 各会員
 神奈川歯科大学100周年おめでとうございます。大変ご盛会でこれからの100年も楽しみにしています。
 ・藤原 会員 横須賀発映画「スカプロ」のマーケティング番組を放送します。5月28日(日) 23:30～24:00、リモコンの11chです。
 ・瀬戸、福西、明野、吉田、越川、加藤、佐久間、大竹、若麻、北村、徳永、澤田、外崎、齋藤、渡邊、根岸、勝見、齋藤、山、藤村、田邊、物井、勝間 各会員 写真をいただいて

<卓 話> 「『ドン・キホーテ』に歴史を読む」

清泉女子大学文学部
 スペイン語スペイン文学科
 名誉教授 吉田彩子様



- I. 「日の沈まぬ帝国」スペインと『ドン・キホーテ』
 1) スペイン・ハプスブルク家の国王たち
 カルロス1世 (1516-1556、神聖ローマ帝国皇帝 1519-1556)
 フェリペ2世 (1556-1598、ポルトガル王：1580-1598)
 フェリペ3世 (1598-1621、ポルトガル王も同じ)
 フェリペ4世 (1621-1665、ポルトガル王 1621-1640)
 カルロス2世 (1661年生、在位 1665-1700)
 2) 小説『ドン・キホーテ』とその作者
 作者：ミゲル・デ・セルバンテス・サアベドラ
 1547年 アルカラ・デ・エナレス (マドリッド近郊) で誕生
 1569-1575年イタリアで生活 (1571年にレパントの海戦で負傷)
 1575-1580年アルジェリアで捕虜生活を送る
 1584年エスキビアスで結婚
 1587-1600年頃アンダルシアで無敵艦隊のための食料調達や収税に従事
 1616年マドリッドで没
 代表作『ドン・キホーテ』の出版：前編1605年、後編1615年

- II. 小説『ドン・キホーテ』に投影されている当時の出来事
 1) オスマン帝国の脅威
 16世紀を通じて地中海の覇権をキリスト教諸国と争う。私掠船による掠奪行為は17世紀まで続いた。
 カルロス1世 1516年 バルバロッサ兄弟にアルジェを奪われる
 1538年 プレヴェザの海戦でオスマン帝国に敗北
 1541年 アルジェ奪回に失敗
 フェリペ2世 1571年 レパントの海戦でオスマン帝国に勝利
 前編 第38章 文武両道についての演説
 第39章～第41章 捕虜の物語
 (第40章に「サアベドラ」という人物についての記述)
 後編 第1章 トルコが艦隊を編成して下降してきたという噂

オスマン帝国の脅威とは

具体的には私掠船による掠奪行為（富と人）

これは宗教でも政治でもなく、経済的動機に拠るもの

人質は身代金による解放が目的、それができなければ奴隷として売った

2) フランドル問題

1559～1566年 異端審問所の設置をめぐってオランダの抵抗が続く

1567年 フェリペ2世はアルバレス・デ・トレド第3代アルバ公爵を総督に任命

1568年 圧政に抗議して独立を求める反乱が起る

1609年 フェリペ3世はオランダと12年の休戦協定を結ぶ

1621年 オランダとの戦争が再開

1648年 ウェストファリア条約の締結（オランダの独立を承認）

『ドン・キホーテ』第39章（1567年から1568年）

・日本とスペインの関係

1534年 イエズス会創立（1540年認可）

1545年 トリエント公会議（～1563年）

1549年 イエズス会士フランシスコ・ザビエルが鹿児島に上陸

1587年 豊臣秀吉がキリスト教の布教を禁止

1597年 秀吉の命令で26聖人の殉教

1600年 関ヶ原の戦い 1603年 家康、征夷大將軍となる

1609年 千葉県岩和田村でサン・フランシスコ号が遭難

1611年 日西双方の使節が相手国に贈り物を届ける。

1613年 双方の使節団（支倉常長、アロンソ・ムニョス）が出発

1613年～1614年にかけて関係が変化 ウイリアム・アダムスの介在

1615年 支倉はマドリード（1月）スペインの使節団は浦賀（8月）に到着

いずれも成果なく、スペイン使節団は1616年に離日支倉は1620年に帰国

⇒江戸幕府の外交方針はヨーロッパの宗教戦争の影響を受けていた

3) モリスコ問題

*モリスコ（キリスト教に改宗したイスラム教徒）

*ムデハル（キリスト教国に居住したイスラム教徒）

1491年12月 グラナダ降伏文書（イスラム教徒に改宗を強制しないと保証）

1499年 トレド大司教シスネロスがグラナでムデハルの強制的改宗を開始

1499年～1501年 アルバイシンのムデハルの暴動

1502年 イスラム教徒（ムデハル）に改宗か国外への移住かの選択を迫る勅令

ただし改宗後もアラブの習慣、言語、服装などを許す

1526年 アラブの習慣、言語、服装などを禁止するカルロス1世の勅令

ただし8万ドゥカドの献金により実施を40年延期

1565年 グラナダの司教達が1526年の勅令の実施を要求

1567年 フェリペ2世は勅令で1526年勅令の実施を認可

1568年～1571年 アルプハッラスのモリスコの反乱

1609年～1613年 フェリペ3世の勅令によるモリスコの追放

『ドン・キホーテ』とモリスコ問題

① 後編第54章 サンチョとリコーテの出会い

追放されたモリスコであるリコーテがドイツからの巡礼団に紛れて、隠し財産を回収するためにスペインに戻って来ている。リコーテが語ることは「自分たちはスペイン人でありキリスト教徒である」「アラビア語もできないし、イスラム圏ではひどい扱いを受けている」「スペインが故郷だから、皆、故郷が恋しくて泣いて暮らしている。」

② 後編第64章～65章 リコーテと娘の再会

娘は母親とともにアルジェリアに逃れた。キリスト教徒の恋人が彼女らに付いて来た。彼女は父親が隠

した財産を回収するためにバルセロナに遣わされたが、恋人はアルジェリアに囚われの身となっている。

バルセロナの港で偶然通りかかった父親リコーテと再会し、居合わせたドン・キホーテたちと共に、恋人の奪還を図る。ここでは以次の視点が示される。「リコーテ一家が本物のキリスト教徒であることが

再度強調される」「バルセロナの副王と富豪のドン・アントニオが一家に同情を寄せる」「アントニオ

はこれからマドリードに旅をするので、モリスコ追放を実行した貴族に一家がスペインで暮らせるよ

う働きかけると約束する」

1609年のモリスコ追放についてのさまざまな見解

原因はスペイン人との同化を拒むモリスコの側にあった。彼らのキリスト教への改宗は表面的なものであったため、オスマン帝国と結んで、オスマン帝国のスペイン侵略を許すのではないかという危惧があった。アラゴンのモリスコがフランスのアンリ4世と結んで反乱を起こす計画もあった。⇒ 追放に理解を示す見

解しかし、1609年当時、モリスコの同化はかなり進んでいたという説もある。当時の政治家、聖職者たちにも追放に反対した人は多かった。結果として、30万人のモリスコが出国した。これは全人口の4%にあたり、すべてが労働人口だった。これにより、スペインの手工業、繊維業、農業は大きな痛手を被った。出国したモリスコは北アフリカやトルコ、その他のイスラム諸国に定住し、地中海沿岸の知識を活用して海賊にな

ったという説もある。

<閉会・点鐘> 13:30 谷 会長

週報担当 新 倉 良 是